

力感と抒情性を併せ持つ魂のチェリスト、クニャーゼフ。
無類の美音と繊細な表現で魅了するピアニスト、コロベニコフ。
今、真の芸術家へと変貌を遂げた天才ヴァイオリニスト、レーピンが、
理想的な仲間たちと紡ぐのは、
恩人の死を悼み書き綴ったチャイコフスキー畢生の名作!

VADIM REPIN

VIOLIN CONCERT

“A La mémoire d'un grand artiste”

with Alexandre Kniazev & Andrei Korobeinikov

ワディム・レーピン (ヴァイオリン) *Vadim Repin, Violin*

音楽こそがワディム・レーピンの母国語である。そのヴァイオリンから豊かな音色のパレットを創り上げる驚くべき才能、眼も眩むばかりのテクニック、そして詩的で繊細な音楽性、世界中の聴衆を魅了してやまない真のヴィルトゥオーゾである。

1971年シベリア生まれ。5歳でヴァイオリンをはじめ、その6ヶ月後にはステージで初めての演奏を果たした。11歳でヴィエニャフスキ・コンクールで金メダルを獲得、モスクワとサンクトペテルブルクでリサイタル・デビュー。1985年には14歳にして東京、ミュンヘン、ベルリン、ヘルシンキ、翌年にはカーネギーホールにデビューしている。そしてさらに2年後、17歳でエリーザベト王妃国際コンクールに優勝、その後もベルリン・フィル、ボストン響、シカゴ響、クリーヴランド管、スカラ・フィル、ロンドン響、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、サンフランシスコ響、パリ管、ロイヤル・コンサート・ヘボウ管、イスラエル・フィル、ロツテルダム・フィル、ハンブルク北ドイツ放送響、サンクトペテルブルク・フィルをはじめ世界のトップ・オーケストラとラトル、メータ、ムーティ、ブーレーズ、ヤンソンス、小澤、ゲルギエフ、シャイー、アシュケナーズ、チョン、ビシュコフ、コンロン、デュトワ、ナガノ、ドホナーニ、エッシェンバッハ、フェドセーエフ、ガッティ、ユロフスキ、ロジェストヴェンスキー、ネゼ=セギャン、テミルカーノフ、ジンマン等の指揮で次々に共演、BBCプロモス、ルツェルン、ヴェルビエ、ラインガウ、ラヴィニア、タンゲルウッド、グシュタードなどトップクラスの音楽祭にも定期的に招聘されている。

ニコライ・ルガンスキー、イタマル・ゴランをパートナーに、世界各地でリサイタルを行っており、2008/09年シーズンにはザルツブルク音楽祭、ウィーン、ジュネーヴ、ロンドン、ブリュッセル、パリ、ルクセンブルク、ミラノ、ニューヨーク、ワシントン、東京を含む世界各国の聴衆を熱狂させた。また室内楽の活動にも精力的で、マルタ・アルゲリッチ、エフゲニー・キーシン、ミッシェル・マイスキーらとも定期的に共演している。

そのほか近年のハイライトは、ゲルギエフ指揮ロンドン響、ティーレマン指揮ミュンヘン・フィルとのツアー、ムーティ指揮ニューヨーク・フィル、シャイー指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ユロフスキ指揮ロンドン・フィルとのツアー、彼のために作曲されたジェームス・マクミランのヴァイオリン協奏曲のロンドン、フィラデルフィア、ニューヨークのカーネギーホールでの世界初演などがあげられる。

CDリリースも多く、協奏曲やソロ、室内楽などいずれも高く評価され、次々と賞を獲得。その後、ドイツ・グラモフォンと専属契約、デビュー盤はムーティ指揮ウィーン・フィルとのベートーヴェンにマルタ・アルゲリッチとのクロイツェル・ソナタのカップリング。2枚目は、シャイー指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管とのブラームス、次いでエコー・クラシックを受賞、マドリッド、ロンドン、ザルツブルクでも共演したマイスキー、ラン・ランとのチャイコフスキーとラフマニノフのピアノ三重奏曲、ルガンスキーとのフランク、グリーグ、ヤナーチェクがリリースされており、いずれも絶賛されている。

2010年2月フランスで最も権威ある"Victoired'honneur"を受賞。同年12月には芸術文化勲章受賞も果たした("Chevalier de l'Ordre des Arts et Lettres")。使用楽器は1743年作のガールネリ・デル・ジェズ「ボンジュール」。

アレクサンドル・クニャーゼフ (チェロ) *Alexander Kniazev, Cello*

力強く抒情的な演奏で定評のある、現代ロシアを代表するチェロ奏者のひとり。モスクワ音楽院でチェロとオルガンを学ぶ。これまでスヴェトラノフ、テミルカーノフ、ロストロポーヴィチ、フェドセーエフ、ヴェデルニコフ、M.シヨスタコーヴィチ、バシユメット、N.ヤルヴィ、マズア、ロシア国立響、サンクトペテルブルク・フィル、チャイコフスキー響、ウィーン響、ロイヤル・フィル、バイエルン放送響、フランス国立管、エーテボリ響、プラハ・フィル等にソリストとして招かれている。室内楽にも情熱を注ぎ、キーシン、レーピン、ルガンスキー、ベレゾフスキーらと共演。キーシンの40歳を祝うフェスティバルにも招かれ、サントリーホールでも共演。ロシア各地はもちろん、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ロンドンのウイグモアホール、ニューヨークのリンカーンセンター、ブリュッセルのパレ・デ・ボ・ザール、ウィーンのエジプツフェライン、パリのサル・プレイエルなどでも演奏している。ザルツブルク、ルガーノのアルゲリッチ・フェスティバルをはじめ数々の音楽祭から、またラ・フォル・ジュルネ音楽祭の常連でもあり、フランス・ナント、東京だけでなく、びわ湖ホール、金沢などでも日本の聴衆を魅了している。バッハの無伴奏チェロ組曲、チャイコフスキー・アルバムをはじめ数々のCDも絶賛されている。



アンドレイ・コロベニコフ (ピアノ) *Andrei Korobeinikov, Piano*

1986年生まれ、モスクワ音楽院を19歳で最優秀の成績で卒業。2004年スクリャーピン国際コンクール優勝、05年ラフマニノフ国際でも2位及び聴衆賞を受賞。07年アシュケナーズ指揮フィルハーモニア管のラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」でロンドン・デビュー。すでにロンドンのウイグモアホール、パリのシャンゼリゼ劇場、ルーブル美術館、サンクトペテルブルクのフィルハーモニー、モスクワ音楽院大ホール、ワシントンのパフォーミングアーツセンター、サントリーホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、チューリッヒのトーンハレ、ベルリンのコンツェルトハウスなどに登場、サンクトペテルブルク・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス国立管、NHK響、ブダペスト祝祭管、ラハティ響などと共演している。コロベニコフのピアノニズムは繊細、透明で、まるで真珠を転がすように粒が揃い美しくそして力強いと評される。クニャーゼフ、レーピンとは度々共演、特にレーピンの若い世代の新しいパートナーとしてはかけがえのない存在である。ディアパゾン・ドールを受賞したスクリャーピンをはじめ、リリースするCDはいずれも高い評価を受けている。17歳でモスクワのヨーロッパ法科大学を卒業、司法試験にも合格するほか、エスペラント語を話すなど異彩も放つ。

